

すべての道は、こんびらさんへ

# まるがめかいどう 丸亀街道

「一生に一度は、こんびらさんへ」と金毘羅参りが盛んになったのは江戸中期以後のこと。丸亀、多度津、高松、阿波、伊予・土佐街道の金毘羅五街道のうち、最も栄えたのが丸亀街道でした。

当時、自由に旅することを許されていなかった庶民にとって、こんびらさんを目指す旅は、まさに束の間の日常から開放される夢の旅・・・。

先人たちが残した跡をたどりながら、あなたも歴史の風に吹かれてみませんか。

## おもな見どころピックアップ

### ①太助燈籠



新堀港（港）建設時の天保3年（1832）、海上の安全を願い、江戸を中心に「常夜灯千人講」が作られ4千人近い人たちの浄財が集められた。現在の灯籠は天保年間に建立されたもので、最高額80両を寄進した塩原太助（たすけ）の名をつけてこう呼ばれる。

### ③妙法寺と与謝蕪村



蕪村が讃岐の俳諧仲間を訪ね、しばらく妙法寺に滞在し、『紙本墨画蘇鉄図』（国の重要文化財指定）などを描き残した。別名「蕪村寺」と呼ばれる。

### ⑨中府の大鳥居



金刀比羅宮の一の鳥居。花崗岩製の明神造り。高さ22尺（約6.7m）柱の間15尺（約4.5m）、上部中央に「金刀比羅宮」と書かれた青銅製の額が掲げられている。明治4年（1871）に大阪府堺、山口県、青森県及び地元丸亀県の人々によって建立された。昭和18年（1943）地震で崩れ、金刀比羅宮が修復した。

### ⑫一里屋の灯籠と丁石

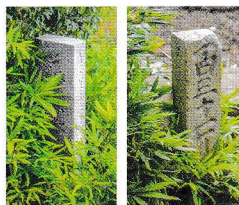


灯籠は明治7年（1874）地元の人々によって建立され、六角の中台には十二支で方位が示され、竿には「東高松」「西いよんそうじ」「せんつうじ」「南金毘羅」「北丸亀」とある。このそばに「是より鳥居まで百丁」「願主京都田原越前守藤原〇〇」「取次丸亀三原屋」と刻まれた丁石がある。以前、土に埋もれ忘れ去られそうになっていたのを平成に復活した。



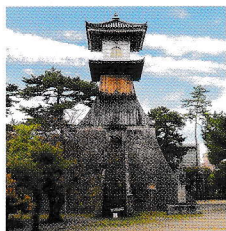


## ②藤の棚跡と百三十一丁石



奈良出身の放浪画家、大原東野の住居跡。絵を売って金毘羅街道の修繕費にあてたという。東野のもとには文人墨客が集ったといわれ、丹精込めて作った藤棚は名所にもなっていた。藤棚は明治30年ころ金刀比羅宮北神苑に移植された。丁石の寄進者は京都の後藤八郎兵衛である。

## ②北神苑



### ●高燈籠

地鎮祭から5年がかりで万延元年(1860)に完成。高さ27mの高燈籠は、丸亀の沖合を通る船や金毘羅を目指して歩く人々の重要な目印になっていたという。費用は金3千両とか。



### ●起点石

丸亀中府の起点石と対になっている。「従是丸亀江百五十拾町」と刻まれている。



### ●虫塚と藤の棚

大原東野が金毘羅街道を修繕する際、道路工事の犠牲になった虫の供養のために文政11年(1828)に塚を建てた。苗田にあったものを藤の棚とともに明治30年頃にここに移した。

## 金刀比羅宮(香川県仲多度郡琴平町)



写真：香川県観光協会ウェブサイトより ©公社) 香川県観光協会

「こんぴらさん」の名で親しまれている金刀比羅宮は、仲多度郡の琴平山に鎮座し、大物主神が祀られています。永万元年(1165)相殿に崇徳天皇を合祀しました。中世になると「金毘羅大権現」と改称されましたが、その後、神仏分離により明治元年(1868)「金刀比羅社」と改称されました。明治11年には「事比羅針宮」と改称され、現在の「金刀比羅宮」と改称されたのは、明治22年(1889)のことです。古くから海上安全の神として全国的に信仰されてきましたが、このほか農業・漁業・医業・技芸など広汎な御神徳を持つ神様として全国の人々の信仰を集めています。

